

表1. 2012年新入生の平均年齢, HPVワクチン接種の有無, がん検診受診の有無

	人数	平均年齢±標準偏差 (最小値-最大値, 中央値)		HPVワクチン接種			子宮頸がん検診受診		
				あり	なし	無回答	あり	なし	無回答
全体	593	18.4±1.48 (17-48, 18)	人数	80	504	9	14	572	7
			%	13.5%	85.0%	1.5%	2.4%	96.5%	1.2%
国大	463	18.4±1.60 (17-48, 18)	人数	54	401	8	11	445	7
			%	11.7%	86.6%	1.7%	2.4%	96.1%	1.5%
市大看護科	96	18.3±1.04 (18-25, 18)	人数	18	77	1	2	94	0
			%	18.8%	80.2%	1.0%	2.1%	97.9%	0.0%
市大医学科	34	18.5±0.57 (17-20, 18)	人数	8	26	0	1	33	0
			%	23.5%	76.5%	0.0%	2.9%	97.1%	0.0%

表2. 子宮頸がんに関する質問と正解率(2012年度新入生)

		95%信頼区間						
	正解		全数	正解者数	上限値	下限値	正解率	
1	子宮がんというのは、子宮頸部にできるがんのことである	×	全体	593	163	31.3%	23.9%	27.5%
			医学部以外	463	114	28.8%	20.8%	24.6%
			看護科	96	38	50.1%	29.7%	39.6%
			医学科	34	11	50.5%	17.4%	32.4%
2	子宮頸がんは20~40歳の女性でかかる人が増えている傾向にある	○	全体	593	573	97.9%	94.8%	96.6%
			医学部以外	463	447	98.0%	94.4%	96.5%
			看護科	96	92	98.9%	89.7%	95.8%
			医学科	34	34	100.0%	89.7%	100.0%
3	20~39歳の女性特有のがんで一番多いのは子宮頸がんである	○	全体	593	291	53.2%	45.0%	49.1%
			医学部以外	463	228	53.9%	44.6%	49.2%
			看護科	96	44	56.3%	35.6%	45.8%
			医学科	34	19	72.8%	37.9%	55.9%
4	子宮頸がんの発症にヒトパピローマウイルス(HPV)が関係している	○	全体	593	492	85.9%	79.7%	83.0%
			医学部以外	463	382	85.9%	78.7%	82.5%
			看護科	96	80	90.2%	74.4%	83.3%
			医学科	34	30	96.7%	72.5%	88.2%
5	子宮頸がんで亡くなる女性は年間2,500人以上である	○	全体	593	424	75.1%	67.7%	71.5%
			医学部以外	463	329	75.2%	66.7%	71.1%
			看護科	96	69	80.6%	61.8%	71.9%
			医学科	34	26	89.3%	58.8%	76.5%
6	10代で子宮頸がんにかかることはない	×	全体	593	573	97.9%	94.8%	96.6%
			医学部以外	463	447	98.0%	94.4%	96.5%
			看護科	96	92	98.9%	89.7%	95.8%
			医学科	34	34	100.0%	89.7%	100.0%
7	子宮頸がんの治療は手術以外にはない	×	全体	593	504	87.8%	81.9%	85.0%
			医学部以外	463	398	89.0%	82.5%	86.0%
			看護科	96	76	86.8%	69.7%	79.2%
			医学科	34	30	96.7%	72.5%	88.2%
8	子宮頸がんになるとその後は絶対妊娠することはできない	×	全体	593	456	80.2%	73.3%	76.9%
			医学部以外	463	354	80.3%	72.3%	76.5%
			看護科	96	75	85.9%	68.5%	78.1%
			医学科	34	27	91.3%	62.1%	79.4%
9	性経験がHPV感染に関係している	○	全体	593	467	82.0%	75.2%	78.8%
			医学部以外	463	363	82.1%	74.4%	78.4%
			看護科	96	73	84.2%	66.3%	76.0%
			医学科	34	31	98.1%	76.3%	91.2%
10	HPVで起こるがんは子宮頸がんだけである	×	全体	593	515	89.5%	83.9%	86.8%
			医学部以外	463	400	89.4%	82.9%	86.4%
			看護科	96	84	93.4%	79.2%	87.5%
			医学科	34	31	98.1%	76.3%	91.2%

表3. HPVワクチンに関する質問と正解率(2012年度新入生)

		95%信頼区間						
		正解		全数	正解者数	上限値	下限値	正解率
11	HPVワクチンはすべての型のHPV感染を予防するワクチンである	×	全体	593	431	76.2%	68.9%	72.7%
			医学部以外	463	338	77.0%	68.7%	73.0%
			看護科	96	66	77.8%	58.5%	68.8%
			医学科	34	27	91.3%	62.1%	79.4%
12	HPVワクチンは2種類ある	○	全体	593	421	74.6%	67.2%	71.0%
			医学部以外	463	335	76.4%	68.0%	72.4%
			看護科	96	66	77.8%	58.5%	68.8%
			医学科	34	20	75.4%	40.7%	58.8%
13	HPVワクチンは、日本で打つことができる	○	全体	593	563	96.6%	92.9%	94.9%
			医学部以外	463	437	96.3%	91.9%	94.4%
			看護科	96	94	99.7%	92.7%	97.9%
			医学科	34	32	99.3%	80.3%	94.1%
14	性経験を待つ前にワクチンを打つほうがよい	○	全体	593	508	88.4%	82.6%	85.7%
			医学部以外	463	398	89.0%	82.5%	86.0%
			看護科	96	79	89.3%	73.2%	82.3%
			医学科	34	31	98.1%	76.3%	91.2%
15	HPVワクチンを受けていれば子宮頸がんにはかからない	×	全体	593	520	90.2%	84.8%	87.7%
			医学部以外	463	401	89.6%	83.2%	86.6%
			看護科	96	88	96.3%	84.2%	91.7%
			医学科	34	31	98.1%	76.3%	91.2%
16	性経験を持った後でも、HPV感染予防の効果が期待できる	○	全体	593	492	85.9%	79.7%	83.0%
			医学部以外	463	390	87.4%	80.6%	84.2%
			看護科	96	78	88.5%	72.0%	81.3%
			医学科	34	24	84.9%	52.5%	70.6%
17	HPVワクチンは3回の接種が必要だ	○	全体	593	424	75.1%	67.7%	71.5%
			医学部以外	463	328	74.9%	66.5%	70.8%
			看護科	96	68	79.7%	60.7%	70.8%
			医学科	34	28	93.2%	65.5%	82.4%
18	HPVワクチンさえ打ったら性行為で感染する病気の心配はない	×	全体	593	570	97.5%	94.2%	96.1%
			医学部以外	463	443	97.3%	93.4%	95.7%
			看護科	96	93	99.4%	91.1%	96.9%
			医学科	34	34	100.0%	89.7%	100.0%
19	HPVワクチンの接種費用は自費の場合、全部で1~2万円程度だ	×	全体	593	232	43.2%	35.2%	39.1%
			医学部以外	463	184	44.4%	35.3%	39.7%
			看護科	96	38	50.1%	29.7%	39.6%
			医学科	34	10	47.5%	15.1%	29.4%
20	日本ではHPVワクチン接種の公費助成はまったく受けない	×	全体	593	476	83.4%	76.8%	80.3%
			医学部以外	463	371	83.7%	76.2%	80.1%
			看護科	96	76	86.8%	69.7%	79.2%
			医学科	34	29	95.0%	68.9%	85.3%

表4. 子宮頸がん検診に関する質問と正解率(2012年度新入生)

		95%信頼区間						
	正解		全数	正解者数	上限値	下限値	正解率	
21	子宮頸がん検診は主に産婦人科医が行っている	○	全体	593	547	94.3%	89.8%	92.2%
			医学部以外	463	426	94.3%	89.2%	92.0%
			看護科	96	90	97.7%	86.9%	93.8%
			医学科	34	31	98.1%	76.3%	91.2%
22	子宮頸部をこすって細胞を取る検査である	○	全体	593	268	49.3%	41.1%	45.2%
			医学部以外	463	196	47.0%	37.8%	42.3%
			看護科	96	52	64.4%	43.7%	54.2%
			医学科	34	20	75.4%	40.7%	58.8%
23	子宮頸がんは、がん検診で早期発見することができる	○	全体	593	518	89.9%	84.4%	87.4%
			医学部以外	463	407	90.7%	84.6%	87.9%
			看護科	96	82	91.8%	76.7%	85.4%
			医学科	34	29	95.0%	68.9%	85.3%
24	生理以外に出血があっても若ければ、子宮頸がん検診の必要はない	×	全体	593	575	98.2%	95.2%	97.0%
			医学部以外	463	448	98.2%	94.7%	96.8%
			看護科	96	95	100.0%	94.3%	99.0%
			医学科	34	32	99.3%	80.3%	94.1%
25	性交経験や症状がない場合でも受けたほうがよい	×	全体	593	54	11.7%	6.9%	9.1%
			医学部以外	463	39	11.3%	6.1%	8.4%
			看護科	96	9	17.1%	4.4%	9.4%
			医学科	34	6	34.5%	6.8%	17.6%
26	20歳以上の女性には、子宮頸がん受診のための地方自治体からの補助がある	○	全体	593	321	58.2%	50.0%	54.1%
			医学部以外	463	257	60.1%	50.8%	55.5%
			看護科	96	46	58.4%	37.6%	47.9%
			医学科	34	18	70.2%	35.1%	52.9%
27	20歳以上で検診を受けている人は50%程度である	×	全体	593	373	66.8%	58.9%	62.9%
			医学部以外	463	289	66.8%	57.8%	62.4%
			看護科	96	62	74.1%	54.2%	64.6%
			医学科	34	22	80.3%	46.5%	64.7%
28	子宮頸がん検診を受けていれば、がんにはならない	×	全体	593	559	96.0%	92.1%	94.3%
			医学部以外	463	432	95.4%	90.6%	93.3%
			看護科	96	95	100.0%	94.3%	99.0%
			医学科	34	32	99.3%	80.3%	94.1%
29	HPVワクチンを受けていれば子宮頸がん検診の必要はない	×	全体	593	557	95.7%	91.7%	93.9%
			医学部以外	463	430	95.0%	90.1%	92.9%
			看護科	96	95	100.0%	94.3%	99.0%
			医学科	34	32	99.3%	80.3%	94.1%
30	検診間隔は1~2年ごとがよい	○	全体	593	490	85.6%	79.3%	82.6%
			医学部以外	463	391	87.6%	80.8%	84.4%
			看護科	96	74	85.0%	67.4%	77.1%
			医学科	34	25	87.1%	55.6%	73.5%

表5. 2011年新入生

	人数	平均年齢±標準偏差 (最小値-最大値, 中央値)	HPVワクチン接種			子宮頸がん検診受診		
			あり	なし	無回答	あり	なし	無回答
全体	630	18.7±2.62 (18-46, 18)	人数 34 5.4%	589 93.5%	7 1.1%	20 3.2%	604 95.9%	6 1.0%
国大	508	18.7±2.86 (18-46, 18)	人数 29 6.7%	474 93.3%	5 1.0%	19 3.7%	484 95.3%	5 1.0%
市大看護科	91	18.7±0.84 (18-25, 18)	人数 4 4.4%	85 93.4%	2 2.2%	1 1.1%	89 97.8%	1 1.1%
市大医学科	31	18.7±2.02 (18-29, 18)	人数 1 3.2%	30 96.8%	0 0.0%	0 0.0%	31 100.0%	0 0.0%

表6. HPVワクチンの認知とワクチン接種

	2011年度大学女子新入生		2012年度大学女子新入生		
	人数	(%)	人数	(%)	
全数	630		593		
ワクチンの認知	人数	(%)	人数	(%)	
ワクチンを知っていた	312	49.5%	382	64.4%	p=0.039*
ワクチンを知らなかった	314	49.8%	210	35.4%	
無回答	4	0.6%	1	0.2%	
計	630	100.0%	593	100.0%	
ワクチン接種					
ワクチンを接種をした	34	5.4%	80	13.5%	p<0.001*
ワクチン接種をしていない	589	93.5%	504	85.0%	
無回答	7	1.1%	9	1.5%	
計	630	100.0%	593	100.0%	
*χ <sup>2</sup> 二乗検定(無回答除く)					

表7. HPVワクチンを受けたくない理由の2年間の比較

	2011年度大学女子新入生		2012年度大学女子新入生	
	人数	(%)	人数	(%)
全数	630		593	
受けたくないと回答	94	14.9%	77	13.0%
理由 (複数回答)				
費用が高い	41	6.5%	38	6.4%
副作用が怖い	42	6.7%	39	6.6%
まだ若いので必要ない	27	4.3%	19	3.2%

表8. 子宮頸がんに関する質問と正解率(2012年度横浜市大非医学部)

95%信頼区間								
	正解		全数	正解者数	上限値	下限値	正解率	
1	×	子宮がんというのは、子宮頸部にできるがんのことである	全体	51	11	35.3%	11.3%	21.6%
		男子学生	27	6	42.3%	8.6%	22.2%	
		女子学生	24	5	42.2%	7.1%	20.8%	
2	○	子宮頸がんは20~40歳の女性でかかる人が増えている傾向にある	全体	51	50	100.0%	89.6%	98.0%
		男子学生	27	26	99.9%	81.0%	96.3%	
		女子学生	24	24	100.0%	85.8%	100.0%	
3	○	20~39歳の女性特有のがんで一番多いのは子宮頸がんである	全体	51	27	67.1%	38.5%	52.9%
		男子学生	27	11	61.2%	22.4%	40.7%	
		女子学生	24	16	84.4%	44.7%	66.7%	
4	○	子宮頸がんの発症にヒトパピローマウイルス(HPV)が関係している	全体	51	35	80.9%	54.1%	68.6%
		男子学生	27	18	83.5%	46.0%	66.7%	
		女子学生	24	17	87.4%	48.9%	70.8%	
5	○	子宮頸がんで亡くなる女性は年間2,500人以上である	全体	51	30	72.4%	44.2%	58.8%
		男子学生	27	13	68.1%	28.7%	48.1%	
		女子学生	24	17	87.4%	48.9%	70.8%	
6	×	10代で子宮頸がんにかかることはない	全体	51	49	99.5%	86.5%	96.1%
		男子学生	27	25	99.1%	75.7%	92.6%	
		女子学生	24	24	100.0%	85.8%	100.0%	
7	×	子宮頸がんの治療は手術以外にはない	全体	51	43	93.0%	71.4%	84.3%
		男子学生	27	22	93.7%	61.9%	81.5%	
		女子学生	24	21	97.3%	67.6%	87.5%	
8	×	子宮頸がんになるとその後は絶対妊娠することはできない	全体	51	42	91.6%	69.1%	82.4%
		男子学生	27	21	91.4%	57.7%	77.8%	
		女子学生	24	21	97.3%	67.6%	87.5%	
9	○	性経験がHPV感染に関係している	全体	51	40	88.7%	64.7%	78.4%
		男子学生	27	19	86.2%	49.8%	70.4%	
		女子学生	24	21	97.3%	67.6%	87.5%	
10	×	HPVで起こるがんは子宮頸がんだけである	全体	51	46	96.7%	78.6%	90.2%
		男子学生	27	24	97.6%	70.8%	88.9%	
		女子学生	24	22	99.0%	73.0%	91.7%	

表9. HPVワクチンに関する質問と正解率(2012年度横浜市大非医学部)

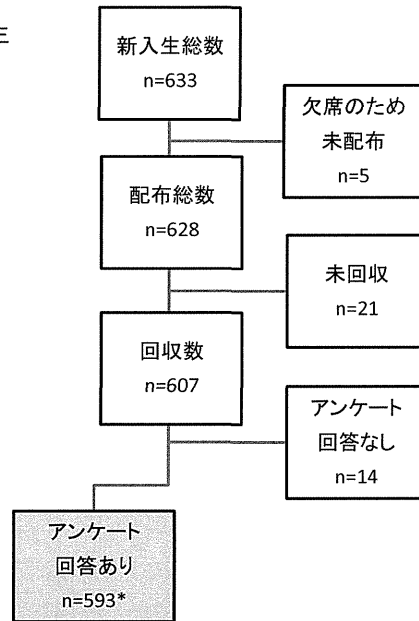
		95%信頼区間						
	正解		全数	正解者数	上限値	下限値	正解率	
11	×	HPVワクチンはすべての型のHPV感染を予防するワクチンである	全体	51	30	72.4%	44.2%	58.8%
		男子学生	27	16	77.6%	38.8%	59.3%	
		女子学生	24	14	77.9%	36.6%	58.3%	
12	○	HPVワクチンは2種類ある	全体	51	34	79.2%	52.1%	66.7%
		男子学生	27	16	77.6%	38.8%	59.3%	
		女子学生	24	18	90.2%	53.3%	75.0%	
13	○	HPVワクチンは、日本で打つことができる	全体	51	45	95.6%	76.1%	88.2%
		男子学生	27	22	93.7%	61.9%	81.5%	
		女子学生	24	23	99.9%	78.9%	95.8%	
14	○	性経験を持つ前にワクチンを打つほうがよい	全体	51	40	88.7%	64.7%	78.4%
		男子学生	27	18	83.5%	46.0%	66.7%	
		女子学生	24	22	99.0%	73.0%	91.7%	
15	×	HPVワクチンを受けていれば子宮頸がんにはかからない	全体	51	42	91.6%	69.1%	82.4%
		男子学生	27	22	93.7%	61.9%	81.5%	
		女子学生	24	20	95.3%	62.6%	83.3%	
16	○	性経験を持った後でも、HPV感染予防の効果が期待できる	全体	51	44	94.3%	73.7%	86.3%
		男子学生	27	21	91.4%	57.7%	77.8%	
		女子学生	24	23	99.9%	78.9%	95.8%	
17	○	HPVワクチンは3回の接種が必要だ	全体	51	34	79.2%	52.1%	66.7%
		男子学生	27	16	77.6%	38.8%	59.3%	
		女子学生	24	18	90.2%	53.3%	75.0%	
18	×	HPVワクチンさえ打ったら性行為で感染する病気の心配はない	全体	51	47	97.8%	81.1%	92.2%
		男子学生	27	23	95.8%	66.3%	85.2%	
		女子学生	24	24	100.0%	85.8%	100.0%	
19	×	HPVワクチンの接種費用は自費の場合、全部で1~2万円程度だ	全体	51	23	59.7%	31.1%	45.1%
		男子学生	27	10	57.6%	19.4%	37.0%	
		女子学生	24	13	74.4%	32.8%	54.2%	
20	×	日本ではHPVワクチン接種の公費助成はまったく受けない	全体	51	43	93.0%	71.4%	84.3%
		男子学生	27	23	95.8%	66.3%	85.2%	
		女子学生	24	20	95.3%	62.6%	83.3%	

表10. 子宮頸がん検診に関する質問と正解率(2012年度横浜市大非医学部)

		95%信頼区間						
	正解		全数	正解者数	上限値	下限値	正解率	
21	子宮頸がん検診は主に産婦人科医が行っている	○	全体	51	47	97.8%	81.1%	92.2%
			男子学生	27	25	99.1%	75.7%	92.6%
			女子学生	24	22	99.0%	73.0%	91.7%
22	子宮頸部をこすって細胞を取る検査である	○	全体	51	27	67.1%	38.5%	52.9%
			男子学生	27	15	74.5%	35.3%	55.6%
			女子学生	24	12	70.9%	29.1%	50.0%
23	子宮頸がんは、がん検診で早期発見することができる	○	全体	51	43	93.0%	71.4%	84.3%
			男子学生	27	22	93.7%	61.9%	81.5%
			女子学生	24	21	97.3%	67.6%	87.5%
24	生理以外に出血があっても若ければ、子宮頸がん検診の必要はない	×	全体	51	45	95.6%	76.1%	88.2%
			男子学生	27	24	97.6%	70.8%	88.9%
			女子学生	24	21	97.3%	67.6%	87.5%
25	性交経験があっても、若ければ検診の必要はない	×	全体	51	49	99.5%	86.5%	96.1%
			男子学生	27	25	99.1%	75.7%	92.6%
			女子学生	24	24	100.0%	85.8%	100.0%
26	20歳以上の女性には、子宮頸がん受診のための地方自治体からの補助がある	○	全体	51	37	84.1%	58.3%	72.5%
			男子学生	27	22	93.7%	61.9%	81.5%
			女子学生	24	15	81.2%	40.6%	62.5%
27	20歳以上で検診を受けている人は50%程度である	×	全体	51	38	85.7%	60.4%	74.5%
			男子学生	27	19	86.2%	49.8%	70.4%
			女子学生	24	19	92.9%	57.8%	79.2%
28	子宮頸がん検診を受けていれば、がんにはならない	×	全体	51	45	95.6%	76.1%	88.2%
			男子学生	27	23	95.8%	66.3%	85.2%
			女子学生	24	22	99.0%	73.0%	91.7%
29	HPVワクチンを受けていれば子宮頸がん検診の必要はない	×	全体	51	45	95.6%	76.1%	88.2%
			男子学生	27	24	97.6%	70.8%	88.9%
			女子学生	24	21	97.3%	67.6%	87.5%
30	検診間隔は1~2年ごとがよい	○	全体	51	41	90.2%	66.9%	80.4%
			男子学生	27	22	93.7%	61.9%	81.5%
			女子学生	24	19	92.9%	57.8%	79.2%

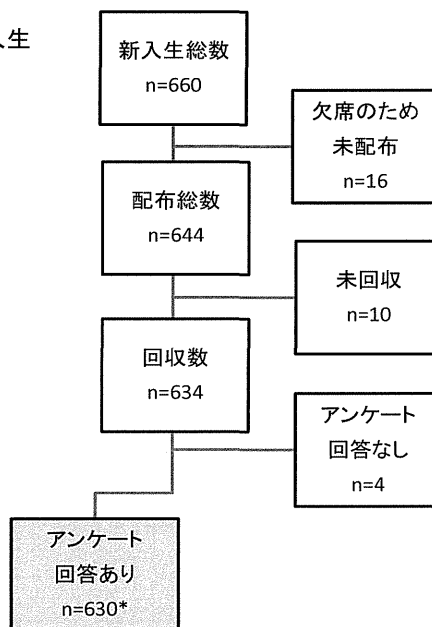


図1. 2012年新入生



\*医学部以外(463人), 医学部看護科(96人), 医学部医学科(34人)

図2. 2011年新入生



\*医学部以外(508人), 医学部看護科(91人), 医学部医学科(31人)

図3. 子宮頸がんに関する質問の正解率の2年間の比較

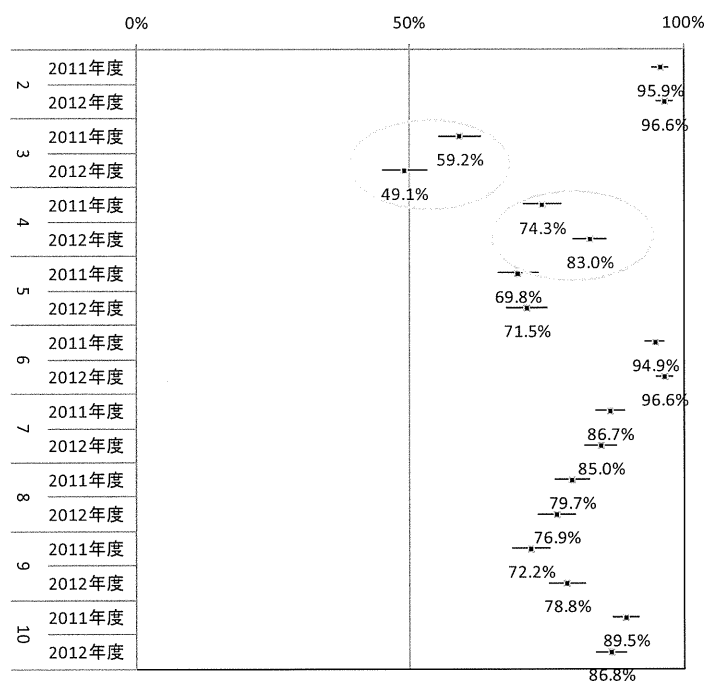


図4. HPVワクチンに関する質問の正解率の2年間の比較

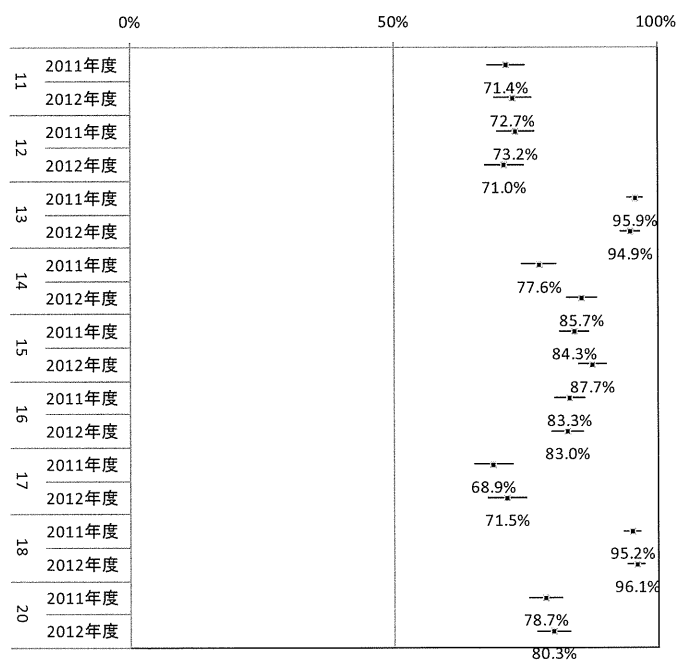
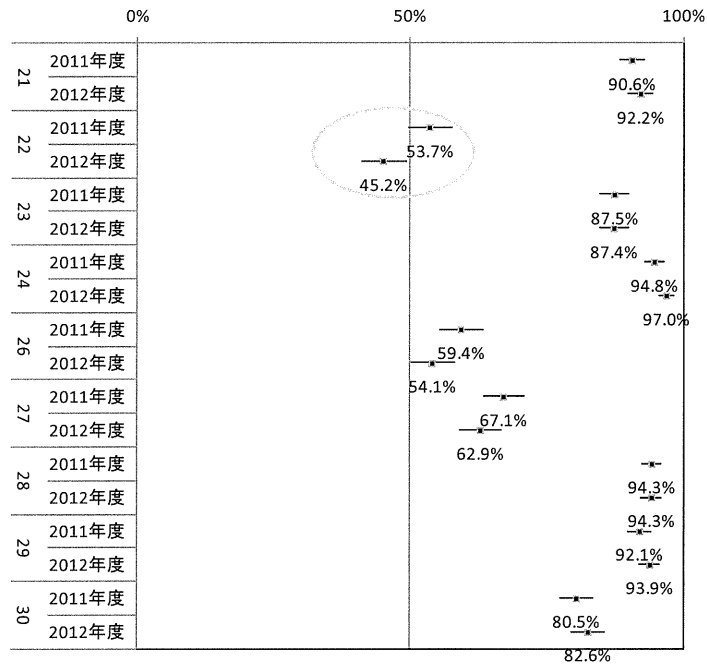


図5. 子宮頸がん検診に関する質問の正解率の2年間の比較



横浜市立大学子宮頸がん予防プロジェクト・横浜国立大学合同研究

**子宮頸がんに関するアンケート調査 (女子学生対象)**

用紙を開くと、アンケートがありますので教えてください。  
最後にすべて記入が済んでいるかももう一度確認してください。  
では、よろしく申し上げます。

横浜市立大学子宮頸がん予防プロジェクト・横浜国立大学合同研究グループ

I. 子宮頸がんについて

正しいと思うものに○、正しくないと思うものに×を記入してください。

- 1 ( ) 子宮がんというのは、子宮頸部にできるがんのことである
- 2 ( ) 子宮頸がんは20~40歳の女性でかかる人が増えている傾向にある
- 3 ( ) 20~39歳の女性特有のがんで一番多いのは子宮頸がんである
- 4 ( ) 子宮頸がんの発症にヒトパピローマウイルス（HPV）が関係している
- 5 ( ) 子宮頸がんで亡くなる女性は年間2500人以上である
- 6 ( ) 10代で子宮頸がんにかかることはない
- 7 ( ) 子宮頸がんの治療は手術以外にはない
- 8 ( ) 子宮頸がんになるとその後は絶対妊娠することはできない
- 9 ( ) 性経験がHPV感染に関係している
- 10 ( ) HPVで起こるがんは子宮頸がんだけである

II. HPVワクチンについて その1

正しいと思うものに○、正しくないと思うものに×を記入してください。

- 11 ( ) HPVワクチンはすべての型のHPV感染を予防するワクチンである
- 12 ( ) HPVワクチンは2種類ある
- 13 ( ) HPVワクチンは、日本で打つことができる
- 14 ( ) 性経験を持つ前にワクチンを打つほうがよい
- 15 ( ) HPVワクチンを受けていれば子宮頸がんにはかからない
- 16 ( ) 性経験を持った後でも、HPV感染予防の効果が期待できる
- 17 ( ) HPVワクチンは3回の接種が必要だ
- 18 ( ) HPVワクチンさえ打ったら性行為で感染する病気の心配はない
- 19 ( ) HPVワクチンの接種費用は自費の場合、全部で1~2万円程度だ
- 20 ( ) 日本ではHPVワクチン接種の公費助成はまったく受けられない

III. HPVワクチンについて その2

御自身の経験、考え方についてお答えください。

そう思うものには○、そう思はないものは×を記入してください。

- 21 ( ) HPVワクチンがあることを知っていた
- 22 ( ) HPVワクチンをすでに接種した ⇒○の場合は何歳？ (            歳,            回まで接種)
- 23 ( ) 将来的にHPVワクチンを受けたいと思う
- 24 ( ) HPVワクチンは費用が高いから打ちたくない
- 25 ( ) HPVワクチンは副作用が怖いから打ちたくない
- 26 ( ) HPVワクチンはまだ若いので必要ないと思っている
- 27 ( ) 高校生の時に麻疹・風疹ワクチン(MRワクチン)接種を受けましたか

IV. 子宮頸がん検診について その1

正しいと思うものに○、正しくないと思うものに×を記入してください。

- 28 ( ) 子宮頸がん検診は主に産婦人科医が行っている
- 29 ( ) 子宮頸部をこすって細胞を取る検査である
- 30 ( ) 子宮頸がんは、がん検診で早期発見することができる
- 31 ( ) 生理以外に出血があっても若ければ、子宮頸がん検診の必要はない
- 32 ( ) 性交経験や症状がない場合でも受けたほうがよい
- 33 ( ) 20歳以上の女性には、子宮頸がん受診のための地方自治体からの補助がある
- 34 ( ) 20歳以上で検診を受けている人は50%程度である
- 35 ( ) 子宮頸がん検診を受けていれば、がんにはならない
- 36 ( ) HPVワクチンを受けていれば子宮頸がん検診の必要はない
- 37 ( ) 検診間隔は1~2年ごとがよい

V. 子宮頸がん検診について その2

御自身の経験、考え方についてお答えください。

そう思うものには○、そう思はないものは×を記入してください。

- 38 ( ) 子宮頸がん検診を知っていた
- 39 ( ) 子宮頸がん検診を受けたことがある ⇒○の場合は何歳? ( ) 歳)
- 40 ( ) 将来的に子宮頸がん検診を受けたいと思う
- 41 ( ) 検査が怖いので受けたくない
- 42 ( ) 産婦人科や検診機関に行くと時間がかかるので受けたくない
- 43 ( ) まだ若いので必要ないと思う

VI. 性教育について

御自身の経験、考え方についてお答えください。

そう思うものには○、そう思はないものは×を記入してください。

- 44 ( ) 学校の性教育の授業で、性行為で感染する病気について教わったことがある
- 45 ( ) 性教育を家庭で受けたことがある
- 46 ( ) その他のところで性教育を受けた ⇒ (どこ? )
- 47 ( ) 教えてもらったことは役に立っている
- 48 ( ) 子宮頸がんやHPVワクチンについての内容があった
- 49 ( ) HPVワクチン接種と同時に正しい性教育が非常に大切だと思う
- 50 ( ) 子宮頸がんが性的感染の結果であることは、あなたの男性観・結婚観に大きな影響を与える

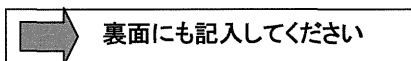
記入日 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

3年生の方は、1年生の時、同様のアンケート調査を受けましたか \_\_\_\_\_ はい・いいえ

年齢 \_\_\_\_\_ 歳 学部 \_\_\_\_\_

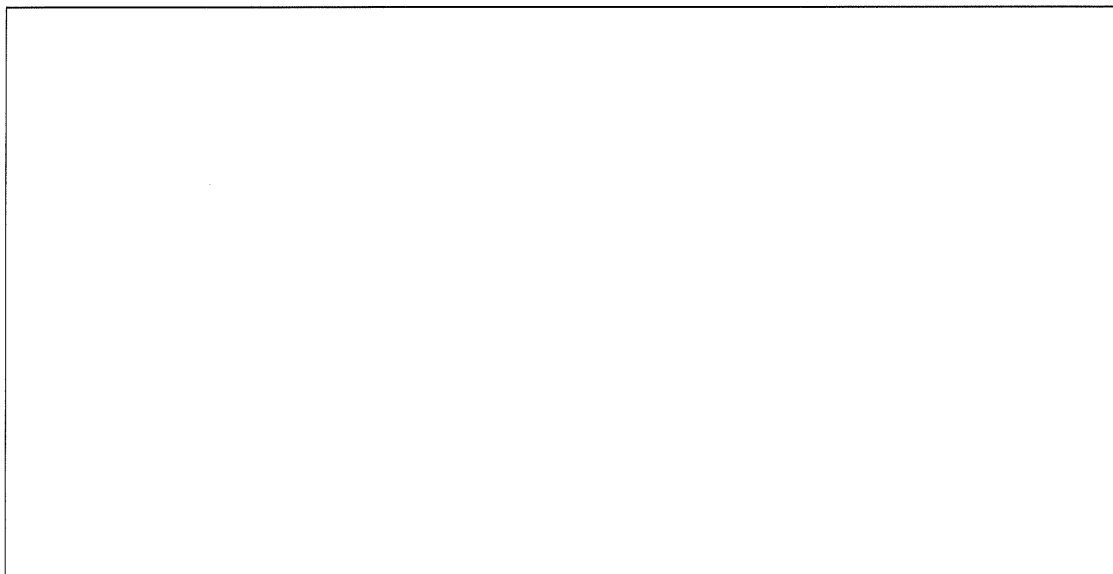
性経験 なし・あり (初交年齢 \_\_\_\_\_ 歳)

高校の時の居住地 \_\_\_\_\_ 都道府県 \_\_\_\_\_ 市区町村 \_\_\_\_\_ 現居住地 \_\_\_\_\_ 市区町村



横浜市立大学子宮頸がん予防プロジェクト・横浜国立大学合同研究

子宮頸がんやHPVワクチン、子宮がん検診について思っていることを自由に書いてください。



ご協力ありがとうございました。

子宮頸がんに関する情報を掲載したサイトを説明用紙の裏に記載しました。このアンケートがみなさんの子宮頸がんやHPVへの関心につながると幸いです。

## 子宮頸がんに関するアンケート調査

用紙を開くと、アンケートがありますので答えてください。

**女子学生はすべて**の項目、

**男子学生は大文字**の項目のみお答えください。

最後にすべて記入が済んでいるかもう一度確認してください。

では、よろしく申し上げます。

横浜市立大学子宮頸がん予防プロジェクト

横浜国立大学合同研究グループ



I. 子宮頸がんについて

正しいと思う場合は「はい」、間違っていると思う場合は「いいえ」に○をつけてください。

1	子宮がんというのは、子宮頸部にできるがんのことである	はい	いいえ
2	子宮頸がんは20～40歳の女性でかかる人が増えている傾向にある	はい	いいえ
3	20～39歳の女性特有のがんで一番多いのは子宮頸がんである	はい	いいえ
4	子宮頸がんの発症にヒトパピローマウイルス（HPV）が関係している	はい	いいえ
5	子宮頸がんで亡くなる女性は年間2500人以上である	はい	いいえ
6	10代で子宮頸がんにかかることはない	はい	いいえ
7	子宮頸がんの治療は手術以外にはない	はい	いいえ
8	子宮頸がんになるとその後は絶対妊娠することはできない	はい	いいえ
9	性経験がHPV感染に関係している	はい	いいえ
10	HPVで起こるがんは子宮頸がんだけである	はい	いいえ

II. HPVワクチンについて その1

正しいと思う場合は「はい」、間違っていると思う場合は「いいえ」に○をつけてください。

11	HPVワクチンはすべての型のHPV感染を予防するワクチンである	はい	いいえ
12	HPVワクチンは2種類ある	はい	いいえ
13	HPVワクチンは、日本で打つことができる	はい	いいえ
14	性経験を持つ前にワクチンを打つほうがよい	はい	いいえ
15	HPVワクチンを受けていれば子宮頸がんにはかからない	はい	いいえ
16	性経験を持った後でも、HPV感染予防の効果が期待できる	はい	いいえ
17	HPVワクチンは3回の接種が必要だ	はい	いいえ
18	HPVワクチンさえ打ったら性行為で感染する病気の心配はない	はい	いいえ
19	HPVワクチンの接種費用は自費の場合、全部で1～2万円程度だ	はい	いいえ
20	日本ではHPVワクチン接種の公費助成はまったく受けられない	はい	いいえ

III. HPVワクチンについて その2

御自身の経験、考え方についてお答えください。

そう思う場合には「はい」に、そう思わない場合には「いいえ」に○をつけてください。

21	HPVワクチンがあることを知っていた ⇒「はい」の場合は何で情報を得た？ (親・兄弟・友人・自治体からのお知らせ・学校の授業・インターネット・その他： )	はい	いいえ
22	HPVワクチンをすでに接種した ⇒「はい」の場合はどこで？何歳？接種回数と費用は？ (場所：産婦人科・内科・小児科，年齢： 歳，接種回数： 回，費用：自費・公費)	はい	いいえ
23	将来的にHPVワクチンを受けたいと思う	はい	いいえ
24	HPVワクチンは費用が高いから打ちたくない	はい	いいえ
25	HPVワクチンは副作用が怖いから打ちたくない	はい	いいえ
26	HPVワクチンはまだ若いので必要ないと思っている	はい	いいえ
27	高校生の時に麻疹・風疹ワクチン（MRワクチン）接種を受けましたか	はい	いいえ

IV. 子宮頸がん検診について その1

正しいと思う場合は「はい」、間違っていると思う場合は「いいえ」に○をつけてください。

28	子宮頸がん検診は主に産婦人科医が行っている	はい	いいえ
29	子宮頸部をこすって細胞を取る検査である	はい	いいえ
30	子宮頸がんは、がん検診で早期発見することができる	はい	いいえ
31	生理以外に出血があっても若ければ、子宮頸がん検診の必要はない	はい	いいえ
32	性交経験があっても、若ければ検診の必要はない	はい	いいえ
33	20歳以上の女性には子宮頸がん受診のための地方自治体から補助がある	はい	いいえ
34	20歳以上で検診を受けている人は50%程度である	はい	いいえ
35	子宮頸がん検診を受けていれば、がんにはならない	はい	いいえ
36	HPVワクチンを受けていれば子宮頸がん検診の必要はない	はい	いいえ
37	検診間隔は1~2年ごとがよい	はい	いいえ

V. 子宮頸がん検診について その2 御自身の経験、考え方についてお答えください。

そう思う場合には「はい」に、そう思わない場合には「いいえ」に○をつけてください。

38	子宮頸がん検診を知っていた ⇒「はい」の場合は何で情報を得た? (親・兄弟・友人・自治体からのお知らせ・学校の授業・インターネット・その他 )	はい	いいえ
39	子宮頸がん検診を受けたことがある	はい	いいえ
40	将来的に子宮頸がん検診を受けたいと思う	はい	いいえ
41	検査が怖いので受けたくない	はい	いいえ
42	産婦人科や検診機関に行く時間がかかるので受けたくない	はい	いいえ
43	まだ若いので必要ないと思う	はい	いいえ

VI. 性教育について

御自身の経験、考え方についてお答えください。

そう思う場合には「はい」に、そう思わない場合には「いいえ」に○をつけてください。


44	学校の性教育の授業で、性行為で感染する病気について教わったことがある	はい	いいえ
45	性教育を家庭で受けたことがある	はい	いいえ
46	その他のところで性教育を受けた 「はい」の場合はどこで?⇒( )	はい	いいえ
47	教えてもらったことは役に立っている	はい	いいえ
48	子宮頸がんやHPVワクチンについての内容があった	はい	いいえ
49	HPVワクチン接種と同時に正しい性教育が非常に大切だと思う	はい	いいえ
50	子宮頸がんが性的感染の結果であることは、あなたの男性観・結婚観に大きな影響を与える	はい	いいえ

記入日: 年 月 日

年齢: 歳 性別: 男・女 学部: 学年: 年

性経験: なし・あり (初交年齢 歳)

高校の時の居住地: 都道府県: 市区町村 現居住地: 市区町村

 裏面にも記入してください

子宮頸がんやHPVワクチン, 子宮がん検診について思っていることを自由に書いてください.

～ ご協力ありがとうございました ～

子宮頸がんに関する情報を掲載したサイトを説明用紙の裏に記載しました.  
このアンケートがみなさんの子宮頸がんやHPVへの関心につながると幸いです.

## ソーシャルネットワークサイトを用いた若年女性の 子宮頸がん予防意識・行動調査と頸がん予防啓発活動に関する研究

研究代表者： 宮城 悦子 横浜市立大学附属病院 化学療法センター長 准教授  
研究協力者： 元木 葉子 横浜市立大学大学院 医学研究科 博士課程  
佐藤 美紀子 横浜市立大学附属病院 産婦人科 講師  
森田 智視 横浜市立大学附属市民総合医療センター  
大学院・医学研究科 臨床統計学・疫学 教授  
田栗 正隆 横浜市立大学学術院 医学群臨床統計学・疫学 助教  
新井 涼子 横浜市立大学 国際総合科学部 学生  
リボンムーブメント代表  
上坊 敏子 社会保険相模野病院 婦人科 腫瘍センター長

### 研究要旨

昨年度開設した本研究事業のホームページや関連するフェイスブック（以下FB）、ツイッターなどのソーシャルネットワークサイト（以下SNS）を活用し、ターゲットとする若年女性をSNSから一定期間に調査研究へ勧誘することが可能か、大学生の自主的子宮頸がん予防啓発団体と共催の市民公開講座にターゲットとする年代の参加者を集めることができるかについて、また報道機関や民間団体の本研究事業へのサポート状況について検討した。16歳～35歳の神奈川県在住の女性に対するウェブサイト上での子宮頸がん予防意識と行動調査は、2013年1月までに150名以上がアンケートの回答を完了し、順調に経過している。大学生団体との共同開催で行った市民公開講座では、参加者の75%が10代と20代で、男性の参加者も33%と予想以上に多かった。また今年度は、本研究事業が新聞や雑誌などで取り上げられる機会が増えるとともに、民間団体による「横浜・神奈川子宮頸がん予防プロジェクトサポーターズ」も設立された。このような様々な試みの実効性については、横浜市や神奈川県の20歳代～30歳代女性の検診受診率の向上やHPVワクチン公費助成あるいは任意による高い接種率の達成によって、検証される必要がある。

### A. 研究目的

3年間の本研究事業の全体像を一般市民や行政関係者に周知するために、2011年度に「横浜・神奈川子宮頸がん予防プロジェクト」の呼称のホームページ（以下HP）を立ち上げた。本年度は、そのHP

サイトや関連するFB、ツイッターなどのSNSを活用し、ターゲットとする若年女性をSNSから一定期間に調査研究へ勧誘することが可能か、大学生の自主的子宮頸がん予防啓発団体「リボンムーブメント」の協力を得て、頸がん予防啓発活動